

【学校教育目標】

真理と正義を愛し、勤労と責任を重んじ、創造力と自主的精神に充ち、地域と国際社会に貢献できる個性豊かで心身ともに健康な人材の育成を目指す。

【重点目標(中・長期的目標)】

- 「白馬にしかない」学びの創造
- ①地域と連携した全国モデルとなる学校協働運営体制を構築する。
- ②地域資源を最大限に活用し、国際的な視野を持ち地域視点で行動するグローバル人材の育成。
- ③基礎的な学力の定着と21世紀型学力の育成に向けた授業改善と授業力向上。
- ④自らの生き方を主体的に意思決定し行動できる進路指導とキャリア教育の充実。

【今年度の重点目標】

- ①学習・生活の両面における個に応じた丁寧な支援・指導を通じた、いじめや体罰のない安心・安全な学校づくり。
- ②地域からの提案を活用した、環境と観光、国際を軸とする探究的で多様な学びの機会の提供と生徒個々のキャリアデザインの具体化支援。
- ③支援係との連携体制の一層の強化。寮生・下宿生に対する丁寧な支援・指導と地域との交流促進。
- ④地域みらい留学を通じた全国募集の促進と地元生確保に向けた、地域、地元小中学校等に対する積極的な情報発信、相互交流の強化。

◎教育活動に関するもの

評価項目	評価の観点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)	評価	達成状況と今後の課題
教育課程 教育内容	カリキュラムマネジメントに基づき実践する教育内容は、生徒の進路実現に効果的なものであったか。	教育課程委員会	進路状況、資格取得状況等の結果による。	B	来年度からの新学習指導要領に対応した新教育課程を編成した。本校の特色を生かした教育課程になるよう編成し来年度から実施する。
	類型別選択制について、選択群の構成並びにそれに属する科目の配置及び内容は適切であったか。			B	生徒の進路希望に応じて類型選択をできるようにした。
学習指導と教育課程 各教科	思考力や想像力を伸ばし、他者の考えを理解する能力を育成できたか。自分の考えを適切に表現する能力を育成できたか。言語文化に対する関心を高めることができたか。	国語科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	調べたことを文章に表現し、相互評価する活動を通じて、理解力や表現力を伸ばすことができた。
	授業編成の工夫や添削指導などを含むさまざまな補習を通して、個々に応じた基礎学力の向上を図ることができたか。また、言語能力の育成を意識し、対話(双方向)的な活動を行ったか。	数学科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	授業内の演習を通して双方向的な活動を行った。毎週木曜日補習を行い、基礎学力の向上を図ることができた。
	習熟度別授業や選択授業、また放課後や土曜日の補習を通して、個々に応じた基礎学力の向上を図る。ALTとのTTの授業や校外でのフィールドワークを通じて、生徒が生きた英語に触れ、英語を使うことの喜びや楽しみを見出せたか。	英語科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート) 補習を定期的にも実施できたか。	B	パワーポイントや音声データ等視聴覚補助教材を使用し、興味関心を養うとともに、基礎力の充実に努めた。基礎力補充・英語検定や大学入試のための補習等も定期的に行うことができた。
	日本と世界の地理・歴史および政治経済に関する基本的事項を理解させ、地域や社会に貢献できる態度を育むための授業実践を行い、適切な振り返りを行ったか。	地歴公民科	地域の課題および地域を題材とした授業を立案し、実施することができたか。授業アンケートを独自に行い、その結果を次年度授業計画に反映させたか。	B	税に関する学習や、主権者教育、地域の歴史を学ぶことを主題にした授業を立案・実施することができた。
	「観光」にかかわる学習活動をさらに拡充させ、より魅力的で、より教育効果の高いものとするための研究をしたか。		新規に提案した企画、または、改善を加えた企画を2件以上立案し、実施することができたか。	B	高校生ホテル、軽井沢や野沢温泉へのフィールドワークなどの授業企画を通じ、長野県の観光について学習探究活動を深めることができた。
	基礎的な学力の養成はもちろんのこと、実験・実習などを活用しながら自然科学への興味を育て、探求的な学習による言語活動を通して発展的な学力の向上を図ることができたか。	理科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	生徒が主体的に取り組めるような実験・実習を単元ごとに実施した。自己の学びの振り返りを行い、わかったことや新たな疑問を表現させた。
	運動の実践を通して、技能および体力の向上と主体性のある調和のとれた人格の形成を目指す。一人ひとりが健康に関して認識を持ち、日常生活の中で、適切な意思決定や行動選択を身につけることができたか。	保健体育科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	クラス、生徒によって差が大きく個々の生徒に対応しきれない面があったが、活動制限がある中で単元内容を変える等工夫することはできた。
	生徒一人ひとりの技能、技術の伸長を図ることができたか。芸術を愛好し、深く味わおうとする心情を育むことができたか。	芸術科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	活動に制限がある中で、生徒の希望も生かしつつ適切な指導を行うことができた。
	生活者として生きるための知識や技術を身につけ、一人一人が主体的に人生をつくれるように実験・実習を活用した授業展開を工夫し、生徒が主体的に取り組むことができたか。	家庭科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	実習を通じて知識や技術を身につけることができた。生徒が主体的に取り組むことができるような課題やICTの活用を工夫していきたい。
	商業科目に興味を持たせ、資格取得を通じて、社会で使える知識・技術(スキル)を身につけさせることができたか。	商業科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	基礎的なスキルを身に付けさせることが出来たが、「簿記」については、内容が難しいという意見が多かった。来年度も引き続き指導方法を改善し、合格できるよう努力していきたい。
情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能の習得と情報社会の特性を理解し、情報化の影の部分に対応し、適正な活動ができる考え方や態度を身につけることができたか。	情報科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	情報モラルの内容では、最新の情報を扱うなど心がけた。実習の授業は概ね好評であった。しかし、SNS等の問題行動が減らないところがあり残念であった。	

評価項目	評価の観点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)	評価	達成状況と今後の課題
教務	教務	教務係	生徒・職員が安心感をもって取り組める環境整備を行うことができたか。	A	職員会議時間の縮減や校務支援システムの推進、次年度における学習評価方法など改善提案を概ね実行することができた。
			生徒に落ち着いた学習環境や機会を提供し、生徒の学力向上を図ることができたか。	B	授業アンケートから、より一層の工夫・改善の必要があると考えられる。
			地域やPTAとも連携し、地域や小・中学校などへのPRを活発化させたか。	A	中学校との情報交換を積極的に行うことができた。
生徒指導	生徒指導	生徒指導係	基本的な生活態度が確立されたか。	B	学期に1回規律を高める週間を実施し登校時の服装指導を実施した。
			健全な高校生活を送るために、豊かな人間関係の形成および問題行動の防止ができたか。	B	大きな問題行動もなく、生徒は落ち着いた学校生活を送ることができた。
			さまざまな機会を通して、交通事故の防止ができたか。	B	実技を交えた交通安全教室を実施し交通安全の啓発を行った。
			さまざまな機会を通して、盗難の防止ができたか。	B	移動教室、集会等の際に貴重品の管理について声かけを実施した。
			生徒が安心、安全で学校生活を送ることができたか。	B	日々生徒個人に寄り添う指導を職員が心がけ、保護者や地域からの情報を活用しながら指導にあたることができた。
進路指導	進路指導	進路指導係	生徒の志望や適性・学力などを正確に把握し、適切な情報提供を行い、進路決定まででいねいに指導することができたか。	A	担任、係を中心に粘り強く丁寧に指導した。アンケートの結果、3年生の82%が進路指導に「満足」「だいたい満足」と答えた。
			生徒の希望と意欲に応じて、早い段階から進路目標を持たせ、普段の授業に加え模試や補習などを効果的に組み合わせた学習計画に沿って、戦略的な進路指導を行うことができたか。新入試改革を研究し、生徒を適切に指導できたか。	A	係は少ない人数であったが、多くの先生方の協力も得ながら指導体制を構築し、各生徒の進路実現につなげることができた。また、1、2年生も進路意識を持った生徒が増えてきた。
	キャリア教育		組織的で系統的な教育活動を展開する中で、生徒の人生観・労働観を養い、目標を持って意欲的に行動することを促せたか。	B	コロナにより就業体験が計画どおり実施できなかったが、職業講話や企業見学会への参加などを昨年度よりも多く計画できた。
	学習指導		授業や公営塾との連携によって生徒の学習状況を把握し、基礎学力向上を目指した取り組み(模試や7時限補習など)を推進することができたか。	A	2か月に1回公営塾との連絡会を持ち、指導に活かした。模試・補習を活用した生徒も増えた。
学校設定科目「代かきタイム」や朝ドリルを通して、小中学校の学習内容の理解と家庭学習などの学習習慣の定着を推進することができたか。		B	1学年では代かきタイム、朝ドリルに熱心に取り組み、学習習慣の定着が見られた。		
生徒会	生徒会活動	生徒会係	生徒が達成感を体験し、自信をつけるため、さまざまな場面で生徒に活躍の場を提供できたか。	B	人を引っ張ることの難しさや説明の仕方に悩む生徒もいたが、各活動を通して自信をつけ、成長する姿が見られた。
			生徒会の将来を考え、組織や活動方法の見直しを行い、必要に応じて改善できたか。	B	必要に応じて活動を見直し、生徒会の組織のあり方について、生徒が主体的に議論する場面が見られた。
	文化祭		早い時点から、生徒主体で計画の立案を行い、充実した内容の文化祭を実施できたか。	A	コロナ禍により臨機応変な対応が求められるなか、生徒主体で準備、運営を行うことができた。
	生徒の自主性		さまざまな機会を通して、生徒会活動に参加させることができたか。	B	自主的な活動には個人差があるが、委員会活動や文化祭、新役員選出の機会を通して、全校生徒が参加者意識を持つよう働きかけた。
			ボランティアや国際交流などの公共的な面にも目を向けさせることができたか。	B	恩返しプランの計画、実行など、今までとは違った形での交流を模索し実施することができた。

評価項目	評価の観点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)	評価	達成状況と今後の課題
保健・環境	健康	保健環境係	アンケートを実施し、その評価による。	B	コロナの影響で、普段の感染予防などの面からは、自身の健康管理について身につけている。
	環境			B	校内外の安全点検を実施した。危険な箇所はなかったが、大雪による落雪などの危険に対して、今後も十分注意していきたい。
	環境			B	学校全体の清掃状況の評価に対する意見が分かれている。美化委員を活用するなどし、清掃指導やチェック体制を改善していきたい。
生徒相談	特別支援教育	特別支援教育委員会	生徒や保護者の意向を踏まえ、スクールカウンセラー事業重点派遣校の92時間を効果的に活用し、支援できたか。個々の生徒に合った支援体制の実施と必要な見直しができたか。教職員対象の研修会を年1回以上行ったか。	B	必要に応じてカウンセリングや専門家と連携した支援会議を行うことができた。アセスを実施し生徒支援の参考にした。7月に自殺予防、11月に対人関係スキルの向上を目指して研修会を実施し理解を深めた。
1学年	学習面	1学年	7割以上の生徒が達成感を実感できたか。(アンケート実施)	B	毎日朝学習に取り組み、基礎学力の定着に努めてきた。遅刻をする生徒が多く見られるようになったので、生活習慣の改善については指導を続けていきたい。
	進路指導			B	実際に長野県内の上級学校の見学を行ったり、分野別説明会を開催したりして進路選択について考える機会を設けた。
	総合学習 白馬学			B	自らが関心をもっていることについて問いを立て、長野県立図書館等を活用しながら探究学習に取り組んできた。
2学年	学習面	2学年	アンケートを実施し、その評価による。	B	基礎力診断テストの結果では教科により下位者は減ってきている。家庭学習の定着は不十分である。
	進路指導			B	コロナ下で難しい条件もあるなかで、大学模擬講義・分野別説明会を実施し、進路を考える機会を与えることができた。
	総合学習 白馬学			B	継続的に気候変動・消費行動について学習することができた。研修旅行は大幅な変更があったが、県内の魅力を新たに発見することができた。
3学年	学習面	3学年	アンケートを実施し、その評価による。	B	必修科目・選択科目ともに、意欲的に取り組めた者が6割以上を占める。
	進路指導			A	進学就職ともに早めの対策や複数の教員からの指導を取り入れることで、第一志望先に進路が決まった生徒が8割以上を占める。
	総合学習 白馬学			B	英語検定の取得状況が昨年度よりふるわなかったが、各自の学習は進路決定に活かすことができた。

◎学校運営に関するもの

評価項目	評価の観点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)	評価	達成状況と今後の課題	
連携	地域・保護者との連携	レポートチャンネルやHPを通して、学校の活動の様子や情報を地域に向けて積極的かつ効果的に発信し、その結果保護者や地域の方の学校への理解が深まったか。	教務係	7割以上の保護者が満足感を得られたか。(アンケート結果)	A	HPでは、「校長Diary」および「白馬高の日常」を通して、学校行事だけでなく、普段の教育活動についても広く地域に向けて発信した。レポートチャンネルは毎月発行することができた。
		白馬・小谷両村の小中学校、行政・企業や地域との連携を深めることができたか。	教務係	各種活動ができたか。(年2回の教員による中学校訪問、中高連携・小高連携事業を複数回実施など)	A	地元中学校に出向き、学校説明会を開催するなど活発に活動することができた。
		P T A行事などを通して、保護者の方との意見交換を充分に行うことができたか。	教務係(P T A担当)	7割以上の保護者が満足感を得られたか。(アンケート結果・地区P T A)	B	県内外の保護者が、PTA総会、学年PTAに出席できるよう、現地開催とWeb開催を併用した形で実施。保護者の方々と積極的な話し合い、情報交換を持つことができた。
		海外から来校する方との交流や海外留学等への参加により、国際交流をはかることができたか。	国際交流委員会	8割以上の生徒および参加者が満足感を得られたか。(アンケート実施)	B	対面での交流は叶わなかったが、オンラインによる交流を年間7回行うことができた。
		学校行事にて、保護者・地域の方との交流を図ることができたか。	教務係(P T A担当)	各行事の参加状況が前年度を上回ったか。	B	強歩大会の保護者によるおにぎりの提供は、地域の方々の協力もあり大変好評だった。
管理運営	安全・安心な学校づくり	生徒がいじめや体罰を受けることなく、安全で安心な学校生活を送ることができたか。	コンプライアンス委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止のための指針に基づき、教職員が生徒指導についての研修を深めるとともに、さまざまな機会を通して生徒への啓発指導を行い、いじめ・体罰事案の発生を予防することができたか。</li> <li>アンケート調査等を通じて、生徒の現況を適切に把握することができたか。</li> <li>いじめ・体罰事案が生じた場合に適切な対応をとることができたか。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修を通して、コンプライアンスや人権意識について理解を深めた。</li> <li>個別面談、学校生活アンケート、アセスの結果等から生徒現況の把握に努めた。</li> <li>生徒間のトラブルについては、担任、学年、生徒指導係、特支コーディネーターが連携して必要な対応をとることができた。</li> </ul>
			教務係	生徒指導(人権教育)はもとより、法令・社会規範・倫理を遵守するよう研修できたか。	A	コロナ禍の中ではあったが、夏休み期間中に研修を行うことができ概ね好評であった。本年度も、オンラインによる研修受講者が増加した。
			教務係	各教科で実施できたか。	B	初任者と5年経験者の研究授業が実施され、11月から12月までの期間を「すべての自由に参観できる授業研究期間」とし、自己の授業を研究する機会とした。